

【平成 14 年度学会賞・奨励賞の受賞者】

[学会賞]

○尾入正哲氏：京都府立大学福祉社会学部助教授（1957 年生，44 歳）

（研究内容） 向井・蓮花編「現代社会の産業心理学」4 章「マン・マシン・インターフェース」、5 章「快適作業環境」、6 章「人間の情報処理とヒューマン・エラー」、福村出版，1999 年。「機器デザインと使いやすさ」日本機械学会講演論文集，1992 年、「高齢者の危険行動とリスクテイキング行動」ジェロントロジー研究報告 4，2002 年，その他論文多数。

（推薦理由） 尾入氏は，労働科学研究所在籍中より，一貫して，労働環境の改善に関する心理学的研究を行ってきた。また，越河六郎，大倉元宏氏らとの共同研究「オフィス環境，地下空間の快適性に関する諸研究」では，グループリーダーの役割を見事にこなし，氏の業績は高く評価される。

[奨励賞]

○篠原一光氏：大阪大学人間科学研究科助手（1967 年生，35 歳）

（研究内容） 自動車の情報化と運転者の注意に関する問題」（シンポジウム講演），日本応用心理学会 68 回大会発表論文集，p.14，2001 年。「CMC における状況の認知と情報発信行動」（共著論文），応用心理学研究，27 巻 1 号，p.21-35，2001 年。「www 掲示板を用いた電子コミュニティ形成過程に関する研究」（共著論文），社会心理学研究，14，144-154，1999 年。

（推薦理由） 篠原氏は，「実験場面における行動研究」を主題とするが，近年は www 上の電子掲示板をフィールドとしたコンピュータを介したコミュニケーション（CMC）研究や，運転者の注意の問題等に関する精力的な研究を行っており，日本応用心理学会 68 回大会におけるシンポジウム「新しい安全心理学の方向を探る」でも演者を務めるなど，活躍はめざましく，今後の発展が期待できる。